

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570400269		
法人名	有限会社 オアシス		
事業所名	ファミリー・オアシス		
所在地	宮崎県日南市戸高4丁目1-3		
自己評価作成日	平成24年8月10日	評価結果市町村受理日	平成24年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570400269&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練、地域のふれあい(保育園児との交流、福祉まつりでの楽器演奏) ・家族へ現状報告を毎月配布・看取りの指針(終末ケア)を行っている。 ・職員研修会「接遇について」「薬について」「利用者本位を始めよう」「熱中症対策」等を実施 ・思い出作り(芋ほり、日南味めぐりくうなぎ)、南郷道の駅ジャカランダ祭り、飢肥城下まつり) ・食事前の嚥下体操、口腔ケア(義歯、舌みがき)を実施 ・家族会と職員共に一円玉、愛の募金で車椅子を購入 ・毎日機能訓練(滑車、平行棒、ゴムボール、ゴムバンド、足浴等)を実施し、上下肢筋力を強化している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者、職員は、笑顔や笑いを絶やさず、利用者や利用者家族に接している。職員は、介護の理念を掘り下げ、共有し、生き生きとした表情で支援にあたっている。ホームでは、人材育成、職員とのコミュニケーションを大切に、向上をめざす職員には惜しみなく後押し、運営推進会議の中で対外の講師を招き、研修会や勉強会を取り入れるなど、常に向上心を持ってホームの運営にあたっている。施設長、管理者は、職員の意見・要望には耳を傾け、すぐに答えを出すことを心がけ、運営に反映させている。利用者には、毎朝化粧の時間を設けるなど、心豊かな日常生活を送れるように、支援が行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「基本理念」「介護理念」「主体的な決定の尊重・安らぎと自信を感じる生活・地域社会の一員としての生活」を理念に掲げて、毎日の朝礼で唱和している。	基本的な運営理念を基に、介護理念を掲げ、家庭的な雰囲気、笑顔を絶やさず、安心・安全な生活を送れるように、職員は毎朝理念を確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭、福祉祭りで楽器演奏発表、園児とのふれあい、元気体操、誕生会等の行事にボランティアの参加を頂く。	市の福祉祭りや地域の行事には積極的に参加し、ホームの行事にも地域住民の協力を仰ぎ、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護にお困りの地域の家族の相談に応じている(徘徊している情報を消防署、警察署に提供)。テーマにより講師を招き、民生委員、区長、福祉員、家族、職員等に研修を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年間のテーマを掲げ、テーマに応じた方々に参加して頂き、意見交換し、サービス向上に努めている(歯科医師・歯科衛生士・薬剤師・消防士・精神保健福祉士)。	ホームの目指す介護の理解を深めるため、多方面から講師を招き、地域住民や利用者、家族、全職員が参加し、研修会や勉強会を開き、意見を交換し、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、情報交換・意見交換を行っている。 市のイベントにすべて参加している(福祉まつり・ジャカランタ祭り・生涯学習発表会)。	運営推進会議への参加もあり、意見交換の場となっている。時には出向き、ホームの現状報告や資料を持参するなど、気軽に相談できる協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日中はオムツをはずし、トイレ誘導を行う。 ・車椅子は移動の時だけ使用し、皆と同じ椅子に座らせている。 ・ベッド柵をしない。 ・つなぎ服を着せない。・手袋をしない。	全職員で、身体拘束についての研さんを積み、正しく理解し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護理念に基づいて、ケアしている。 特に身体暴力はもとより、見えない言葉の暴力に一番、気をつけている。 利用者の声を無視しないで、ながらを止めて、正面から向き合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設研修に、社会福祉士を招いて研修する。 H20年入所のKさんに成年後見人制度を適応している。H23年入所のFさんは、福祉事務所・所長に身元引受け人を依頼している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い、重要事項説明書、契約書に権利義務を記載し、納得頂いたうえで印鑑を頂いている。同意書(終末ケア、その他)を家族から得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員で解決しており、解決できない問題は、第三者委員会(民生委員2名、弁護士)を設け解決するようにしている。	家族会もあり、運営推進会議の中や日常のケアの中でも、家族や利用者の意見や要望が出しやすい雰囲気づくりに心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個人面談を年2回行って、職場環境、勤務、満足度等について意見を聞いている。	職員が気軽に意見や要望が出せる信頼関係ができており、施設長や管理者は、職員の思いを十分にくみ取り、出された意見や要望にはすぐに応え、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得、また、役職による給与の増額をしている。無資格者も、ヘルパーの資格取得を義務づけて採用する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	接遇技術の向上、専門知識を習得する為、外部から講師を招き、職員全員、研修を行う。介護福祉士、その他の資格者に自覚させ、適材適所でやる気と責任を持たせる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南ブロック研修会(口腔ケア・薬剤について)、連絡協議会(利用者本位を始めよう)に参加し、他の施設の職員と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状態(表情、行動)に配慮し、寄り添うケア、顔馴染みの関係を作っている。本人が一番得意としている物、興味のある物に関心をもたせる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めている事、不安な事を素直に受け止め、解決に向け対応していくように努める。初期の現状を知らせる。施設見学をしてもらい、入所者の暮らしぶり、表情を見る事により、安心してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や暮らしぶりを聞き、家庭と変化がないように、自立支援を目標としたケアプランを作り、サービス支援を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔なつかし料理、知恵袋を教えて頂き、全員でいろいろと関わって作りあげ、職員と一緒に食べている。制服はなく、私服で家族のようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつも気軽に来られやすい雰囲気を作っている。誕生会・父の日・母の日・食事会等を本人、家族、職員を交えながら、家族同士の親睦を行う家族会も作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古里訪問、仏壇参り、墓参り、声の便り、年賀状、暑中見舞い等をお友達に出して、親交を深めていっしょにやります。	思い出の場所や墓参り、友人、知人家族へ便りを出すなど、なじみの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ郷里で暮らした利用者が、昔話に花を咲かせ、楽しげに会話されている光景が見られます。日南の行事や風習、伝統料理を職員に教えられ、利用者の満足そうな笑顔が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院の為、家族との話し合いで部屋を確保し、退院時に再入所できるようにしている。 経済的に困られ、部屋代を免除した例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入所者、家族によるサービス評価アンケートを実施している。	職員は、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)の「私の姿と気持ちシート」を作成し、利用者の特徴をとらえた全身の姿を絵に描き、日常の何気ない言葉や行動を書きとめ、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人が語られる事柄に耳を傾け、また、趣味や以前よくやっていた事をしてもらう事により、生活に活気もどおり、楽しい日々を送られている。アルバムを見る事で、思い出の回想法につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の精神面(心と身体のシート)、(私の姿と気持ちシート)を使って、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月の見直しに、家族、管理者、ケアマネ、介護職員で担当者会議を開き、家族の要望、主治医の意見を聞いてケアプランを作成し、月1回のモニタリングを行い、計画に沿った介護ができていないか評価し、検討している。	3か月ごとの見直しや状況の変化に伴い、その都度の見直しが行われている。モニタリングやアセスメントも詳細に記録され、それらに沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った介護の実践や結果を個別記録に記入し、気づきや問題点等を会議で話し合い、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者の病院への受診の時、職員が一緒に付いていく。墓参り、彼岸、年忌とり、お盆、正月用の買い物。馴染みの理・美容院への要望に、臨機応変に対処している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議を通して、民生委員、地域包括支援センター、また、医師の往診、消防署による火災訓練、保育園児によるふれあい、中学生の福祉体験、理・美容院による散髪、いきいきサロン(公民館)への参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に、馴染みの医師による医療を継続するか、本人、家族に伺い、その上で変更の際に同意書を本人、家族に記入してもらっている(内科・皮膚科・眼科・歯科・往診してもらっている)。	職員同行の下で、従来の掛かりつけ医の継続受診支援を行っている。受診後は、直ちに家族に結果の報告を行い、掛かりつけ医、家族、職員の連携を図りながら、支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアホームの看護師に相談したり、主治医、薬剤師の良き指導をうけ、アドバイスを受けている。緊急な場合は、かかりつけの医師に往診してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、婦長等と利用者の情報を共有し、家族の相談にもり、話しあう。長期入院になると、認知症の進行がみられる為、顔馴染みの職員が日程を決めて、必ず1人は病院に行き、話しかけたり、食事の介助をしたりして、利用者を安心させる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアに関しては、重度化した時点で、何度も家族とのカンファレンスを行い、家族と共に看取りを行う事を基本としている。男性 3名、女性 9名を看取り(がん・老衰)、7月3日、宮日新聞「生ある限り」(施設の看取り)の取材を受け、掲載された。	ホーム開設当初から、看取りを行っている。家族には、ホームの方針、指針を説明し、同意も得た上で支援を行っている。状況の変化に伴い、家族との話し合い、協力医との連携を図りながら、支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当講習会で、救急救命士を依頼し、救命処置、AED、異物除去の仕方の研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、自主避難訓練を適時に行っている(入所者を非難階段から誘導)。	年2回、基本的な訓練のほかに、自主訓練や夜間を想定した訓練を行っている。従来の非常階段のほかに、利用者を安全に避難誘導を行うための非常階段を設置し、災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修会で、「接遇について」の勉強会を実施した。	人生経験の豊富な先人として、尊敬の心を大切に、利用者の誇りを傷つけない対応をしている。研修も受け、理解をさらに深めた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日曜日のメニューは、食べたい料理を聞いて、一緒に作って食べている。週1回、喫茶コーナーを設け、「アイスコーヒー・ホットコーヒー・紅茶」等、本人の希望に添って選んでもらっている。行きつけの美容室にも送迎している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は、機能訓練(上下肢筋力強化)、レクリエーションで皆さんと楽しまれ、午後は一人ひとりの状態に合わせ、自由に本読み、昼寝、トランプ、歌を歌う等して過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、女性はお化粧の時間を設けて、鏡に向かって身だしなみを整え、男性は髭剃りを行い、一日のスタートに心身ともリフレッシュできています。また、月に1度、理・美容院の散髪、ブティックの訪問がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員と共に、季節の料理(かしわ餅・梅干し・らっきょう・盆だんご・おはぎ・五目寿司・お餅つき・そば打ち)等を作り、楽しまれている。盛り付け、食器拭き等の後片付も、進んでしていらっしゃいます。	利用者の長い生活歴で培われた経験を生かし、季節の行事に合わせたいろいろな料理を、楽しみながら職員と共に作っている。日常の食事は、自家製の調味料を使い、作られている。職員も見守りながら、同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下困難の利用者は、ゼリー状にしたり、とろみをつけて、摂取して頂いている。食欲不振の時は、蛋白ゼリー・ブイレス・アイオールソフト等、栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回、往診して頂き、「舌下みがき」、「歯石除去」、「アイスマッサージ」、嚥下訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導することにより、尿意、便意の訴えが見られるようになった。夜間も誘導することにより、オムツの使用が減った。原則として、昼間のオムツは使用していない。	昼間はおむつの使用をせず、利用者の排泄パターンを把握し、利用者の表情や行動を見逃さず、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、水分補給チェック表を記入して、夏は1600cc以上、風呂あがりにはポカ리를補給している。野菜たっぷりの献立で、繊維質を摂り、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が希望すれば、毎日でも対応している。チェック表に自分で印をつけることにより、入浴を嫌がらなくなった。自分で洗える所は洗ってもらい、残存機能を活かす支援をしている。	午後に入浴時間を設けている。利用者の希望に合わせて、毎日の入浴もできる体制にある。利用者の能力に合わせて、できることは本人に任せるなど、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後から1時間くらい昼寝の時間、また、眠たい時に居室で休憩されている。機能訓練(滑車・平行棒・足浴・ゴム等)を行うことにより、夜間はぐっすり休まれるようになった。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の一覧表を個別に作成している(介護上の留意点も記入)。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自、役割分担をもってお茶碗拭き、テーブル拭き、洗濯物干し、洗濯たたみ、料理の盛り付け、おやつ作り等に楽しんで参加されている。郷土料理(むかでのり、いりこ餅、梅干し)等を職員に教えられている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家庭菜園にて、収穫祭を実施。串間に芋ほり、日南味めぐり、いちご狩り、飫肥城下まつり、南郷ジャカランダ祭り、墓参り、仏壇参り、孫の結婚式、誕生会に参加されている。	日常は、個々の希望に沿って、周辺の散歩を楽しみ、普段行けない場所のお祭り、花見や外食、ドライブなどには家族の協力を得て、外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、お祭り等にはお金を持たせ、自分の好きな物を選んで買い物をしてもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	娘さんや知人からの手紙、また、電話がかかってきたり、本人からの電話の支援。暑中見舞い・年賀状を入所者本人が書いて、家族、園児たちに出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ、照明、温度調節を利用者に合わせている(温度、湿度計を各部屋に掛けている)。季節の花々を居室、食堂に飾っている。	南向きの建物から明るい光と風が入り、利用者の作品の貼絵や習字、日曜日ごとに開かれるカフェのメニューがあり、季節を感じる草花が小さくあちこちにさりげなく生けてある。利用者・職員共に、安らげる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのコーナーでトランプ、ジェンガ、かるたとり、本を読んだり、カラオケなど、遊びを通じて、利用者と職員が一緒になり、笑い声がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物(タンス、机、時計、アルバム)を持って頂き、居心地の良い環境づくりになっている。	全室南向きになっており、明るい光が入る居室作りがされている。。それぞれに自分の好みや生活に合わせたものが持ち込まれ、清潔に整った、居心地良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の部屋がわかるように、入り口にネームを貼り、自分の部屋を認識してもらっている。トイレ、風呂場と大きく表示して、各部屋がわかるように表示している。		